

乾癬性関節炎

病気の概要

乾癬は皮膚に症状が現れる免疫系の疾患です。

銀白色の鱗屑を伴う赤い発疹が、頭皮、ひざ、など全身の様々な部位に現れ、痛みやかゆみ、出血を伴うこともある疾患です。

疫学

欧米では人口の2-3%に発症するといわれていますが、日本人での有病率は人口の約0.1%と諸外国に比べて低く、日本人の患者数は約10万人といわれています。

乾癬性関節炎の特徴

- 皮膚症状と関節症状の両方がみられる疾患です。
- 関節症状は関節リウマチに似ていますが、症状はやや異なり、リウマチ因子も通常は陰性です。
- 手指などの小関節に変化がみられることが多いが、時に大関節（腰、頸部）にも変化が起ることがあります。
- 患者の60-70%は皮膚症状が先行しますが、20-30%は関節症状が先行、10%は皮膚症状と関節症状が同時期に発症します。
- 皮膚症状の出現から10年以上を経て、関節症状が出現することもあります。

乾癬性関節炎の治療

非ステロイド性消炎鎮痛剤

免疫抑制剤

メトトレキサート、シクロスポリン

生物学的製剤

TNF- α 阻害薬、IL-12/23阻害薬、IL-17阻害薬